

平成24年度 第1回 学生 - 教員懇談会報告

開催日時：平成24年4月27日（金）16：30～18：30

会 場：大会議室

出席者：副学長、学部長、教務部長、厚生部長、学生部長、事務長、学生課長（書記）

学 生：2年次～6年次の各学年学生代表2名ずつ計10名（学生委員会の推薦）

目 的：学生代表との意見交換により学生の意見集約を図り、教育環境及び学生生活環境の改善に資することを目的するとともに、学生 - 教職員間のコミュニケーションの増進を図ることを目的とする。

会議概要

学生部長の司会で主に下記の内容の意見交換が行われた。

- ①教務部関係
- ②学生部・厚生部関係
- ③施設・設備関係
- ④その他

学生の主な発言内容意

1. 2年次

学生A：

- ・1年次生から、本学の授業のやり方（科目担当先生の配置、授業方式など）は、個人にとっては良かった。
- ・小テストを行うことは、少しでも勉強をすることに繋がるので賛成である。
 - ・昼休みが短い。もう少し長くして欲しい。
 - ・学内全面禁煙には反するが、昼休みが短いことに関連して、ローソンへの買い出しのためにも北門を開けて欲しい。

学生B

- ・私語（友人同士の談話など）が軽易に出来る場所が欲しい。また、全般に部屋が暗い。

冷暖房の利きが悪い（主たる受講講義室は、320講義室）

勉学等に関し「何をヤッテ」・「何をヤラナイデよいか」・・・先生方は、細かく指導して欲しい。

(1) 3年次

学生C

- ① 学内用 HIPLUS を自宅でも出来るようにして欲しい。

- ② 台風時など、自然災害発生時の出校等についての対応基準を設けて欲しい。また、初動が遅い。

学生D

- ① 小テストを行って学力向上を図るより、講義をしっかりと聴いて、科目の理解を積み上げを行って行くことが学力を向上させるためには重要な事である。
- ② トイレの手洗いの水が出ないことがある。修理を細かく行って欲しい。
- ③ 学生全般は「薬剤師になりたい」という希望は持っているが、「努力をどれくらいしなければならぬか」と言うことは、解っていない。
- ④ 学力が向上しないことについて、一つ々の講義科目の理解による履修中の全科目の繋がりが出来ていないことが問題
- ⑤ 懇談会の人員構成で「成績の悪い人」の懇談会も計画すべきだ。

(3) 4年次

学生E

- ① 学内は全面禁煙であるが、必ずしも守られておらず、学内秩序の乱れを正すためにも学園内は、分煙化すべきだ。(買出し等のためにも北門の解放を行って欲しい)
- ② インターネットを自由に行える環境を作って欲しい。(本学所属学生の証明を頂けるシステム化により、いろいろな学術部門にアクセスし情報を得ることが出来る)
- ③ 勉強をさせると言う観点から言えば、小テストを行うことで勉強せざるを得ない環境を作為する事も重要だ。
- ④ 大学は、過去からの成功体験(それなりに力を付けて国試に合格して行った人など)を蓄積していない。均一でない学生の集団を、「如何にしたら勉強するのか」に導く事が重要である。
- ⑤ 5年次生の空き時間の活用：課題を与えるなど、頭を使う時間を作為すべきだ。
- ⑥ 学力向上を期すため、一つのやり方としては、中間試験を行い、勉強する動機付けを作為する事も必要である。
- ⑦ 学力向上に資する目標設定の例として、困難とは思いますが、相対評価を行い、学年を「上・中・下」グループに分けて、授業を行うことも必要だと考える。但し、最終的には、一定の基準(点数など進級の基準)を定めて、進級させるなど、絶対評価に帰結する目標設定を行う事が重要だ。

学生F

- ① 定期試験の幅が広すぎる。
- ② 授業の早さについて行けない。(予習・復習は当然のごとく行っているのですが、細かい部分を深く追求していく余裕がない)
- ③ 学食の電子レンジが撤収されて現在設置されていない。昼の休憩時間が45分と短いためローソンやセブンイレブンから昼食を購入した際の暖め用として設置して欲しい。

- ④ コピー機が2台では足りない。(定期試験前などに、使用が集中)
- ⑤ 食堂・カフェテリアが暗い。学生がいるところは、もう少し、明るくして欲しい。

(4) 5年次

学生G

- ① 実務実習のポスト教育について「5年次生が、もうすぐ実務実習に行く事を前提に、5年次生に対して実務実習を体験した6年次生が体験(経験)を伝えられるようなポスト教育」であって欲しかった。
- ② 学長の「本学は、100%薬剤師の養成を目指す大学である」との言葉があるにもかかわらず、本年「6年制度 第1回目卒業生」の入学者数に対する国試合格比率は60人/223人=約30%と極めて低い比率にある。これは、本学の各先生方が「学長の言われる言葉の重み」と「自分のなすべきこと」の理解がなされていないところに大きな問題があると感じている。また、教職員管理職のチェックも甘いものがあると感じている。

学生H

- ① 実務実習に関する各様の指示が出るのが遅い。
- ② CBT試験終了から実務実習に行くまでの時間が長く、課題などを付与して勉強をせざるを得ない状況を作して欲しい。
- ③ 朝の通学時間帯だけでも、新館のエレベータ2台、どちらとも動かして欲しい。
- ④ 過去は、勉学の機会を作するなど、学力向上を目的として、中間試験が計画的に設定されていたと思うが、なぜ今は、計画されていないのか。

(5) 6年次

学生I

- ① 教務関連の掲示による指示が遅い。また、インターネットで掲示板を参照するように指示が出ているにもかかわらず、掲示板に貼付がなかったり・・・インターネットと掲示物の内容が違っていたり、きめ細かい点検など、指導の徹底を図って欲しい。
- ② 実務実習のポスト教育について、5年次生に対して、「①実務実習を通じて考えさせられたこと。 ②実務実習を通じて体験したこと。」を伝えられるようなポスト教育であるべきだったと感じている。

学生J

- ① 教務掲示板の整理・・・掲示の統一化。また、掲示物の内容とネット表示が違う場合がある。
- ② 食堂横女子トイレの電気が暗い。
- ③ 空調のON・OFFを学生の判断でやるため、寒暖感触に個人差がある場合、「寒さ・暑さ」を我慢せざるを得ない場合がある。
- ④ 厚生会館更衣室など、許可されていない場所での喫煙がある。指導を徹底して欲

しい。

- ⑤ 6年次の時間割について、1日全部を授業では無く、例えば、半分は卒論研究、残りの半分は授業とか、メリハリの利いた時間割にして欲しい。
- ⑥ 実務実習のポスト教育について、5年次生に対して、「①実務実習を通じて考えさせられたこと。 ②実務実習を通じて体験したこと。」を伝えられるようなポスト教育であるべきだったと感じている。

3 学生の意見とその対応について

(1) 教務部関係

学生の意見	大学側の応答	大学の事後対応
1年次生から、本学の授業のやり方（科目担当先生の配置、授業方式など）は、私個人にとっては良かった。	とくに無し。	現在、大学にはFD委員会や自己点検・自己評価委員会が設置されており、教育内容改善に係る審議が行われている。各学年での成績評価の方法、教育方法、カリキュラムなど教育改善へ向けて対応を準備している。
小テストを行うことは、少しでも勉強をすることに繋がるので賛成である。	学力向上施策を含め、事後、教務委員会で検討します。	
小テストを行って学力向上を図るより、講義をしっかりと聴いて、科目の理解を積み上げを行って行くことが学力を向上させるためには重要な事である。	本学学生は全般を通じ、勉学の量が少ないのではないかと感じる。	
勉強をさせると言う観点から言えば、小テストを行うことで勉強せざるを得ない環境を作らざる事重要だ。	学力向上施策を含め、事後、教務委員会で検討します。	
勉学等に関し「何をヤッテ」・「何をヤラナイデよいか」・・・先生方は、細かく指導して欲しい。	この種の教科書は、このような時に使うと言ったことを、低学年次に教える必要がある。	
学内用 HIPLUS を自宅でも出来るようにして欲しい。	セキュリティーの問題で当面学外での使用はできない。	
台風時など、自然災害発生時の出校等についての対応基準を設けて欲しい。また、初動が遅い。	現在検討しているところです。基準を早期に設定したく思う。	現在、自然災害時の対応について対応基準を作り、周知を図りました。
学生全般は「薬剤師になりたい」と言う希望は持っているが、「努力をどれくらいしなければならないか」と言うことは、解っていない。		学生代表者と教員の懇談会が設けられており、教育に関しては、学生さんの意見を収集しながら、先にもふれたが、FD委員会や自己点検・自己評価委員会などで検討し、改善をはかっていく方針である。
昼休みが短い。もう少し長くして欲しい。	講義と講義の間の休み時間の長さを長くして欲しいとの要望があり、休み時間の見直しをした結果です。	

学生の意見	大学側の応答	大学の事後対応
<p>新入生の多くは、過去からの成功体験（それなりに力を付けて試験に合格した、勉強でよい結果を残した、などなど）を蓄積していない。いかにしてそれを与えてやり、勉強への動機付けを強化してやればよいか考えるべき。均一でない学生の集団を、「如何にしたら勉強するのか」に導く事が重要である。</p>	<p>私立大学では学生間の学力差が大きい。多くの学生に薬剤師への目標を達成させるために、薬学への興味を高め、勉学意欲が高まるような教育を工夫するよう教員の教育・指導を行っている。</p>	<p>前述したが、学生代表者と教員の懇談会が設けられており、教育に関しては、学生さんの意見を収集しながら、先にもふれたが、FD 委員会や自己点検・自己評価委員会などで検討し、改善をはかっていく方針である。</p>
<p>5年次生の空き時間の活用：空き時間に講座を入れて欲しいという意見が五年生から挙がったが、学校のカリキュラム外で、TOEICの勉強、その他資格の勉強、卒業研究など、自身の勉強時間として有用であるから、あまり講座を詰めすぎるべきではない。特に、卒業研究として実験に取り組んでいる人にとっては、時間がいくらあっても足りないので、考慮してほしい。</p>	<p>設定を何か考えて見る。</p>	
<p>学力向上を期すため、一つのやり方としては、中間試験を行い、勉強する動機付けをはかることも必要である。</p>		
<p>学力向上に資する目標設定の例として、困難とは思いますが、相対評価を行い、学年を「上・中・下」グループに分けて、授業を行うことも必要だと考える。但し、最終的には、一定の基準（点数など進級の基準）を定めて、進級させるなど、絶対評価に帰結する目標設定を行う事が重要だ。</p>	<p>単純計算で、学力の低いものには、今の倍の授業時間を付与する必要がある、現実的には困難であることを理解していただきたい。</p>	

学生の意見	大学側の応答	大学の事後対応
定期試験の幅（範囲）が広すぎる。	講義量はどの大学でも同じであり、本学の試験範囲が特別広いわけではない。	
授業の早さについて行けない。 （予習・復習は当然のごとく行っているのですが、細かい部分を深く追求していく余裕がない）	習った科目について、判らないところは、その日のうちに解決することが大切だ。いろいろな手段を講じ、きっちりやるべきだ。	
実務実習に関する各種の指示が出るのが遅い。	実習先については、第三者機関の実務実習調整機構を介して決定されるため、その連絡は遅くなる。	
実務実習のポスト教育について 「5年次生が、もうすぐ実務実習に行く事を前提に、5年次生に対して実務実習を体験した6年次生が体験（経験）を伝えられるようなポスト教育」であって欲しかった。	実務実習センターに要望を上げておく。	
学長の「本学は、100%薬剤師の養成を目指す大学である」との言葉があるにもかかわらず、本年「6年制度 第1回目卒業生」の入学人数に対する国試合格比率は60人/223人=約30%と極めて低い比率にある。これは、本学の各先生方が「学長の言われる言葉の重み」と「自分のなすべきこと」の理解がなされていないところに大きな問題があると感じている。また、教職員管理職のチェックも甘いものがあると感じている。	100%の意味は、「旧4年制度薬学教育では、他職種への就職もあり、必ずしも薬剤師養成目的ではなかったが、6年制度では薬剤師養成が目的であることが明確であるので、本学の教育は4年制度と違って100%薬剤師養成である。」との意味である。 現在、本年度初めのガイダンス時に行った「アンケート調査（FD委員会）」の集計を行っており、より具体的なデータが出ると思うので改善されていくと判断している。	新国家試験制度の第1回目の対受験者での合格率は82%であった。対入学人数からみると、進級率、退学率が数値に影響するため、極端に低数値になる。現在、大学にはFD委員会や自己点検・自己評価委員会が設置されており、教育内容改善に係る審議が行われている。第1回目の国試の解析結果から、入試制度や各学年での成績評価の方法、教育方法など次年度に向けた教育改善計画が進行している。
CBT試験終了から実務実習に行くまでの時間が長く、課題などを付与して勉強をせざるを得ない状況を作って欲しい。	検討する。	5年次で国家試験に向けた総復習プログラムを準備することになった。

学生の意見	大学側の応答	大学の事後対応
教務関連の掲示による指示が遅い。また、インターネットで掲示板を参照するように指示が出ているにもかかわらず、掲示板に貼付がなかったり・・・インターネットと掲示物の内容が違っていたり、きめ細かい点検など、指導の徹底を図って欲しい。	指導する。	連絡事項に不一致がないよう教務課で対応することになっている。
教務掲示板の整理・・・掲示の統一化。また、掲示物の内容とネット表示が違う場合がある。	指導する。	
6年次の時間割について、1日全部を授業では無く、例えば、半分は卒論研究、残りの半分は授業とか、メリハリの利いた時間割にして欲しい。		FD委員会、自己点検・評価委員会等で検討していく。
過去は、勉学の機会を与えるなど、学力向上を目的として、中間試験が計画的に設定されていたと思うが、なぜ今は、計画されていないのか。	中間試験をなくしたのは、文部科学省から15コマの授業時間設定を厳守するように指導がなされたからです。また、結果の評価は半々である。	

(2) 学生部・厚生部関係

学生の意見	大学側の応答	大学の事後対応
学内は全面禁煙であるが、必ずしも守られておらず、学内秩序の乱れを正すためにも学園内は、分煙化すべきだ。(買出し等のためにも北門の解放を行って欲しい)	分煙化は考えていない。引き続き指導を行っていく。	学内禁煙は、法律的にも実施しなければならない事項であり、学生委員会で罰則を含めた学内禁煙実施計画を立案することになっている。
厚生会館更衣室など、許可されていない場所での喫煙がある。指導を徹底して欲しい。	指導を行っていく。	

学生の意見	大学側の応答	大学の事後対応
学食の電子レンジが撤収されて現在設置されていない。昼の休憩時間が45分と短いためローソンやセブンイレブンから昼食を購入した際の暖め用として設置して欲しい。		新たに電子レンジを設置した。
コピー機が2台では足りない。 (定期試験前などに、使用が集中)		図書・国試情報センターにコピー機を設置した。
食堂・カフェテリアが暗い。学生がいるところは、もう少し、明るくして欲しい。		社会的節電の要請のため、一時期うす暗く感じるがあったが、省エネ電球に替え、明るくなっている。
食堂横女子トイレの電気が暗い。		

(3) 施設・設備関係

学生の意見	大学側の応答	大学の事後対応
私語(友人同士の談話など)が軽易に出来る場所が欲しい。また、全般に部屋が暗い。	営繕課に通報すると共に改修を含め、事後、厚生委員会・学生委員会で検討	これも社会的節電の要請が夏場にあったことが影響したが、現在学生生活に支障がないよう対応することになっている。
冷暖房の利きが悪い(主たる受講講義室は、320講義室)	営繕課に通報	
トイレの手洗いの水が出ないことがある。修理を細かく行って欲しい。	営繕課に通報	修理済み。
朝の通学時間帯だけでも、新館のエレベータ2台、どちらとも動かして欲しい。	世の中の節電の動きに合わせて1台を通常休止としている。必要に応じて、対応できるよう心掛ける。	これも社会的な節電要請に基づくもので、若い学生諸君には階段利用を心がけてほしい。但し、高層階への移動が多いと考えられる時間帯があれば検討する。
朝の通学時間帯だけでも、新館のエレベータ2台、どちらとも動かして欲しい。	営繕課に通報	
新館エレベーターを動かして欲しい。	営繕課に通報	
食堂・カフェテリアが暗い。学生がいるところは、もう少し、明るくして欲しい。	営繕課に通報すると共に改修を含め、事後、厚生委員会・学生委員会で検討	現在、改善されている。

(4) その他

学生の意見	大学側の応答	大学の事後対応
学内全面禁煙には反するが、昼休みが短いことに関連して、ローソンへの買い出しのためにも北門を開けて欲しい。		現在、開放されている。
懇談会の人員構成で「成績の悪い人」の懇談会も計画すべきだ。	本年度4回の学生懇談会を計画している。事後そのように対応したい。	
空調のON・OFFを学生の判断でやるため、寒暖感触に個人差がある場合、「寒さ・暑さ」を我慢せざるを得ない場合がある。		節電が求められている現状もあり、教務課員がコントロールするよう配慮している。
<p>①インターネットを自由に行える環境を作って欲しい。</p> <p>メールアドレスの配布が、本学所属学生であるという事の証明になる。これによって、学術向けのソフトウェアを利用できるようになり、加えて、学生向けのインターネットサービスを受けられるようになる。「ac.jp」のドメインは、社会的に信頼性のあるアドレスとして扱われているからである。また、全学生に配布した場合、学生への連絡がスムーズになり、卒業後の追跡も容易になるという面もある。</p> <p>② 学内へインターネットを開放することで、情報のやりとりがスムーズになる。</p> <p>学生のインターネット利用を活性化することで、情報リテラシーについて学校側も真剣に取り組むきっかけになるし、卒業後の力になると考える。</p>		学内LANのセキュリティーの問題があり、コンピューター委員会で検討している。対応として、外部業者の無線LANサービスができるようになっている。徐々に改善していきたい。